



「祝辞」

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

そして、保護者の皆さま、晴れの卒業式を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。また、この三年間PTA活動にご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

卒業生の皆さんは、この三年間でいろいろな体験を通じて、心も身体も大きく成長されたと思います。授業で学んだこと。運動会で頑張ったこと。修学旅行で楽しかったこと。さまざまなことが頭に浮かぶと思います。新型コロナウイルスが蔓延して、当たり前前の日常がいかにありがたい事だったかを私達は思い知らされています。

今日あるのも、皆さんの日々の努力はもろろの事、いつもどんな形であれ愛情を持って育ててくれた家族の人たち、また、皆さんの個性を尊重しながら一生懸命に、そして楽しく、時には厳しく、ご指導をしてくださった先生方、どんなことでも相談でき話し合える、かけがえのないすばらしい友だち。そして、大勢の地域の方々の心強い応援があったことを忘れないでほしいと思います。それが大磯中学校の学びではなかったでしょうか。

義務教育を終え、皆さんはこれからそれぞれの道へと進んで行きます。その先にはいろいろなことが待ち受けていることでしょう。今の世の中は情報が溢れ、真実がとも見えづらくなっています。だからこそ、たくさんの人に出会って、たくさん悩んで、そしていろんなことを経験して、目の前にある情報を鵜呑みにするのではなく、その真実を自分で見極められる人になって欲しいと思います。そして、誰のせいにもしない、自分自身の人生をしっかり歩んでいってください。

皆さんは、世界の人々のことを百人の村に置き換えてみる話を知っていますか？

「世界がもし百人の村だったら」という話です。世界がもし百人の村だったら、コンピューターをもっている人は村にたった一人。百人のうち一人ですから一パーセントです。

皆さんは自由に文字を読み、本も読めます。百人の村では七十人ものが文字を読めないのだからです。

私たちは百人の村では少数派の恵まれた村民です。本も読め、食事もでき、家もありますね。

十一年前の三月十一日に東日本大震災が起こり、多くの尊い命が突然失われました。世界を見渡すと、この時にも紛争や貧困によって、家族と離れ、明日の食事や命さえ危ぶまれている人々の暮らしがあります。ニュースを見てそこから想像する力、さまざまな情報をつないで組み立てる力、そして、自分の身近な人に置き換えて知ろうとする努力を持ち続けて欲しいと思います。

皆さんが元気にこの卒業式の日を迎えられた事こそが、どんなことよりも大切なことです。

最後にこの地域で育ったことに自信と誇りを持って堂々と自分の道を進んでください。卒業生の皆さんの今後のご健勝とご活躍を心からお祈り申しあげ、お祝いのごとばとさせていただきます。